

平成 19 年(2007)年度 財団法人横浜市青少年育成協会 事業計画

平成 19 年度は、財団法人横浜市青少年育成協会が本格的に発足して 3 年目の年になります。当協会がこれまで培ってきた実績、能力、専門性を発揮するとともに、青少年の自立と主体性を促す機会づくり 青少年が安心して心豊かに暮らせる環境づくり 青少年の活動を支援するための仕組みづくりの 3 つの基本的な視点に沿って事業を実施します。

事業の企画、実施にあたっては、地域や企業、市民などとの協働・連携を図りつつ市民ニーズを的確にとらえ、また協会が市民から親しまれる団体となるよう、様々な事業を通して協会の設置趣旨や事業情報の提供など、協会の PR を行っていきます。また青少年育成活動の支援、青少年の科学知識の普及など従来の活動に加え、今年度からは学齢期の就労体験などをはじめとする青少年の自立支援に向けた事業を展開します。

協会の組織強化に向けて、施設間の連携事業の実施はもとより、平成 18 年度の「組織・人事給与検討委員会」の提言をもとに組織、人事制度、給与などに関して、着手できる改革を直ちに実施するとともに、さらに中長期の視点に立って具体策について検討を行います。

一方、横浜市青少年育成センター、横浜市青少年交流センター、横浜市野島青少年研修センター、横浜こども科学館の 4 施設について、青少年育成の拠点施設として管理運営業務を行います。また放課後キッズクラブ事業については、平成 19 年 9 月に新たに 1 か所のクラブを加え、合計で 18 校の運営を行います。

平成 19 年 4 月から 4 か年、横浜市と新たに締結する「協約」に基づき「特定協約団体」として、当協会の公益的使命を明らかにし、自主的な改革・経営改善を図り、団体としての自主・自立性を高めていきます。また青少年 4 施設の利用者の増や、青少年育成を進めるために実施する事業の内部評価、外部評価を行い、その結果を反映、改善していきます。

指定管理者として、効率的・効果的な管理・運営、協約目標の達成などを着実に実現することにより、次代を担う青少年の主体性や創造性を育みつつ、心豊かな成長を支援するとともに、自立支援を推進します。



協会運営

1 組織強化に向けた取り組み

平成 18 年度の「組織・人事給与検討委員会」の提言をもとに組織、人事制度、給与などに関して、着手できる改革を実施するとともに、さらに具体策について検討を行います。(資料 P12)

2 協約目標の達成

平成 19 年 4 月から 4 か年の期間で、横浜市と締結する「協約」について、青少年 4 施設の利用者の増や、青少年育成を進めるために実施する事業の内部評価、外部評価を行い、その結果を反映、改善していくなどの 6 項目の事項達成のために全力で取り組みます。

3 広報・情報提供活動

(1) 協会ホームページの充実

インターネット媒体を通して、協会の概要、青少年4施設の紹介、事業および講座等の案内、ボランティア活動、最新の宇宙・天文情報等の情報を提供することにより、青少年育成活動、ボランティア活動希望者の支援、科学知識の普及および協会のPRを行うとともに、協会運営の透明性や公開度を高めていきます。また、情報を受け取る側のニーズを反映した、わかりやすく有益な情報提供の方策を検討するとともに、情報提供量の増加などを図ります。(資料P10)

(2) 情報紙の発行

ア 協会広報紙の発行

協会主催・共催事業、協会の管理・運営施設での事業等を広く提供する「はまユース情報」を発行し、事業参加者の増加を図るとともに、協会自体や、その取り組みについて広く市民に周知していきます。(資料 P10)

イ 青少年育成情報紙の発行

青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」を通じて、青少年育成活動に従事している人や、これから取り組もうとしている人に対しても、協会が取り組んでいる活動や考え方を伝えるとともに、青少年育成活動の専門的な情報を発信し、活動の活性化を促進します。(資料 P10)

ウ 科学情報紙の発行

科学情報紙「科学館ニュース」の発行や科学館事業案内などで、来館者に有益な情報を提供します。(資料 P18)

4 会員への情報提供等

(1) 「協会だより」の発行

協会の動きや会員が参加可能な事業等をお知らせし、協会事業への参加および協会への理解を深めます。(資料P12)

(2) 会員交流会

協会への理解と会員相互の交流を図るため交流会等を実施します。(資料P12)

5 ボランティア育成基金

(1) 基金委員会

基金募集事業についての企画・運営を協議し、基金の拡充を図っていくとともに、基金運営についての協議を行います。(資料P11)

(2) 「爆笑！濱っ子寄席」等の基金募集事業の実施

基金募集のため「爆笑！濱っ子寄席」や基金箱の設置等の事業を実施します。(資料 P11)

協会の主な事業

1 海・ふれあい・体験事業

市内の施設を利用し、楽しみながら星空や海に触れ、横浜や自然に愛着が湧くきっかけを、青少年を対象に提供します。また異なる学校の参加者相互のふれあいを通じて青少年の視野を広げていきます。同時に青年サポーターを養成し、ボランティア活動など社会参加のきっかけとします。協会本部および各施設が連携する、施設連携事業として実施します。(資料 P10)

2 子どもの遊び場サポート事業

プレイパークをはじめとする、集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育ていく”遊びの場”に関わるボランティアを養成します。(資料 P11)

3 青少年の体験活動充実に関する事業

ボランティア活動をはじめ、自然、就業、科学などの青少年の体験活動・学習についての相談・コーディネート、活動情報の収集・提供を通じて青少年に関わるボランティアの裾野を広げることを目的として、青少年体験活動推進センターの運営を行います。(資料 P12)

4 学校教育と連携した地域人材の活用システムの事業の推進

中学校における地域人材の活用について、モデル校での実践を通じて、地域が学校を見守る体制を作るとともに、他の学校への普及を図るため、広くこの実践の成果をPRしていきます。(資料 P11)

5 野島クリスマスキャンプ(共催、実行委員会支援)

横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒を対象に、交流・集団活動の体験の場を提供するとともに、青年ボランティアが児童・生徒への理解を深めてもらうことを目的に団体(実行委員会)と協働で実施します。(資料 P11)

6 青少年の自立支援に関する事業(新規)

青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動を、市内の若者自立支援の専門機関、団体と連携し実施します。(資料 P11)

7 不登校・ひきこもり支援団体、組織との協働事業(共催)

横浜市教育委員会が行う適応指導教室「ハートフルスペース」(不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生活指導)の場として、横浜市青少年交流センターを提供します。また、宿泊事業を横浜市教育委員会と共催で実施し、青年ボランティアを導入した集団生活の支援を行います。(資料 P11)

8 横浜災害ボランティアネットワーク会議への参加・支援

災害時にボランティア活動が効果的に行えるよう、市内のボランティア推進機関や団体および区等との連携を強化するために、ネットワーク会議の活動に参加します。また、他の中間支援組織やNPOとのネットワークを構築することで協会の中間支援機能を発揮していきます。(資料 P12)

9 ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル 2007

高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進するため、運営支援団体の一員として実施します。(資料 P11)

10 PTA新聞作り講習会

PTA 広報紙に必要な新聞づくりの基本について、講習と演習、作品コンクール等を行います。なお、会員は参加費を割り引くことで、会員の拡大を図ります。(資料 P12)

11 共催・後援事業等

この他様々な事業を、当協会の共催・後援事業として、他団体や関係機関と協働して実施します。また、他団体の事業に協力します。(資料 P11, P15)

施設の管理・運営、施設の主な事業

1 施設の管理・運営

横浜市の青少年 4 施設について、指定管理者として、それぞれの特性を踏まえた施設運営を行います。また、4 施設における事業の相互連携を図り、効率的・効果的な青少年育成事業を実施し、利用者増と利用者の満足度向上に努めると同時に、安全・安心・安定性を確保する維持・管理を行います。

(1) 横浜市青少年育成センター

青少年を理解し青少年育成に共に取り組む核となる指導者、育成者を養成、NPO など青少年育成団体への支援を通して青少年育成に取り組む主体を育みます。

ボランティア情報スポットの充実を図るとともに、センター利用件数および利用料金収入の増加、利用率の向上に取り組めます。(資料 P13)

利用件数目標値：3,385 件 / 年

(2) 横浜市青少年交流センター

青少年が安心して気軽にくつろげる居場所の拠点施設として、青少年が様々な人と交流し、自立性や社会性を育む場を提供します。また、市内に青少年の居場所機能を持つ場所や活動が広がっていくための取り組みを行います。(資料 P14)

ロビーワーク()の充実や、できるだけ制限を設けない会議室、スタジオの貸出、地域との交流事業などにより、施設の活性化を行います。また、居場所機能に関するノウハウを関係施設、団体等に提供し、支援を行います。

ロビーワーク：スタッフによるロビー(フリースペース)に集まる利用者たちとの関わり合いや、そこで行われる様々な事業を総称してロビーワークと呼んでいます。

青少年利用者数目標数値：72,000 人 / 年

施設全体利用者数目標数値：145,000 人 / 年

(3) 横浜市野島青少年研修センター

宿泊施設という特長を活かして、集団活動を通じた青少年育成を行います。また、青少年指導者・育成者の研修活動支援と、提供プログラムの開発、施設環境の内容の充実などに取り組み、利用件数や稼働率の増加を図ります。(資料 P15)

施設利用件数目標数値：530 件 / 年

稼働率目標数値 : 72%

(4) 横浜こども科学館

青少年の科学に関する知識の啓発を図り、創造性豊かな青少年の育成に寄与するため、企画展、各種教室、イベント等を開催するとともに、展示室(特別展示、常設展示)および宇宙劇場の安定稼働に努めます。特に、昨年度宇宙劇場に導入した全天周デジタル映像投影装置()と国内最高性能を誇るプラネタリウム投影機を駆使した番組内容の充実を図り、入館者・入場者の増加に取り組みます。(資料 P17)

全天周デジタル映像投影装置：6 台のビデオプロジェクターを使用し、プラネタリウムのドームスクリーンに、魚眼レンズで撮影されたような映像(静止画および動画)を映し出す装置です。これにより、観客は映像に包まれるような感覚を味わい、そのシーンの中に自分がいるような臨場感を体験することができます。

利用団体数目標数値：992 団体 / 年

2 施設の主な事業

(1) 横浜市青少年育成センター

ボランティア情報スポット

青少年指導者、育成者、NPO等を支援することで、地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮していきます。

青少年育成活動に関する情報収集・提供、相談、コーディネートや講座、研修会の開催、ネットワーク支援などを行います。(資料 P13)

(2) 横浜市青少年交流センター

ア 講座・研修会

青少年の自主的な活動を支援するため、スポーツ講座、クラフト講座、クッキング講座、音楽講座などの講座や研修会を開催します。(資料 P14)

イ 交流事業

全館を利用し模擬店やゲームなどを行う大規模な「こどもの日まつり」や、季節を感じることができる「七夕飾りづくり」など、青少年が気軽に準備から運営まで参加できる事業を実施します。また、日頃センターで利用者が遊んでいる、卓球やバスケットボールなどの「スポーツ大会」などを行い、学校や年齢を超えた交流や仲間づくりの場を提供します。(資料 P14)

(3) 横浜市野島青少年研修センター

ア 講座・研修会

青少年指導者、育成者等を対象に、野外活動、工作など青少年活動における指導のスキルの習得、向上を図る講習会を実施します。(資料 P15)

イ 野島ふれあいランド

施設と研修センターのノウハウを提供し、遊びを中心に地域の青少年の育成と異年齢間の交流を促進します。(資料P15)

ウ 体験学習プログラム

横浜市内外の小学校4年生を中心とした宿泊体験学習を促進するため、野島ならではの自然を活用したプログラムの開発・提供を行い、自然に対する興味、理解を深めると同時に、施設の利用を促進します。(資料P16)

(4) 横浜こども科学館

ア 企画展・夏休み特別展

特別展示室を活用し、年間を通して企画展を実施します。常設展示とは異なるテーマや展示形態を取り、様々な角度から科学のふしぎ、おもしろさにふれてもらう機会を提供します。(資料P17)

イ 各種教室・ワークショップ等

施設機能を活かし、ゴールデンウィーク・夏休み特別イベント、コンピュータ教室や実験工作教室、天文教室などの各種教室・ワークショップ・イベントを開催します。(資料P18)

ウ 地域連携事業「洋光台サイエンスクラブ」

地域やNPO、ボランティアとの連携を図りながら、近隣地域の子どもたちを対象に、様々な教室や催しを実施することで、理科離れに歯止めをかけ科学への興味をかきたてます。

(資料P18)

エ その他事業

科学体験活動インストラクター養成研修、サイエンスキャンプなどを通してボランティア育成事業を行います。(資料P18,19)

(5) 各施設が一体となって取り組む事業

ア ボランティア活動の場の提供

青少年4施設でボランティア体験ができるよう、運営や事業実施方法を工夫し、ボランティア活動の場の提供やボランティアの育成を行います。

イ 青少年が直接体験するための事業の企画運営への青少年の参画推進

「海・ふれあい・体験プログラム」、「サイエンスキャンプ」などの事業の企画運営に青少年が参画できる仕組みを作ることにより、ボランティア体験活動の機会を提供します。

ウ 青少年対象事業

親子で参加できる事業や、青少年体験事業を実施します。事業の充実と参加者の増加を図ります。

エ ホームページによる情報提供

青少年4施設で実施する様々な事業の案内、ボランティア活動等の情報を協会本部と連携して提供します。

- (ア) 協会の概要（概要、設立趣意書、事業計画、事業報告、予算、決算等）
- (イ) 各施設に関する情報
- (ウ) 事業に関する情報
- (エ) ボランティア活動情報
- (オ) ボランティア情報スポットに関する情報
- (カ) 青少年体験活動推進センターに関する情報
- (キ) 宇宙・宇宙ニュース
- (ク) その他の情報

オ 企業協力の獲得

自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うために企業協賛の獲得に努めます。

（青少年育成活動情報紙、協会広報紙、科学情報紙等への広告の掲載、こども科学館宇宙劇場の投影番組における広告の上映等）

カ 広報出版事業

青少年育成活動に取り組む団体へのノウハウや情報提供のために、青少年育成、科学の普及等を目的とした広報出版を協会本部と連携して実施します。

キ 他団体後援・共催・協力事業

各施設の設置趣旨に沿って、様々な事業を他団体や関係機関と協働して実施します。また、他団体の事業に協力します。

4 放課後キッズクラブ運営事業

横浜市と連携を図りながら、「子どもたちの放課後懇話会」の提言を踏まえ、小学校施設を活用し、すべての子どもたちを視野に入れ「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを進めています。平成18年9月には新たに2か所の「放課後キッズクラブ」の運営を開始しました。当面、1区1か所程度の運営を目指し、平成19年9月に開設されるキッズクラブを含め、合計18か所の運営を行います。（資料P19）

資料集

【事業計画】

寄付行為第3条に定めた目的を達成するため、横浜市との連携のもと、青少年育成事業を企画・実施します。また、様々な市民活動と協働しその活動を支援するとともに、青少年育成の総合推進を図ります。

【分類の凡例】

A：青少年に体験機会を提供する

B：情報提供により青少年をとりまく地域社会を育てる

C：協働により青少年の育成主体を支援する

D：財務・組織の基盤の充実

詳しくは、別添の事業体系図参照

協会事業

| 事業名 | 分類 |
|---|----|
| <p>1 海・ふれあい・体験事業</p> <p>市内の施設を利用し、楽しみながら星空や海に触れ、横浜や自然に愛着が湧くきっかけを、青少年を対象に提供します。また異なる学校の参加者相互のふれあいを通じて青少年の視野を広げていきます。同時に青年サポーターを養成し、ボランティア活動など社会参加のきっかけとします。協会本部および各施設が連携する、施設連携事業として実施します。</p> | A- |
| <p>2 青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」の発行</p> <p>横浜の青少年に関わる事例を取り上げ、様々な取り組み・活動を客観的に伝えることで、“地域で子ども・青少年を見守り、育てる”目を広げていくとともに、地域の青少年の育成活動を支援します。</p> <p>(1) 発行：年4回</p> <p>(2) 配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内各郵便局、駅PRボックス、市、区、市民利用施設等</p> | B- |
| <p>3 協会広報紙「はまユース情報」の発行</p> <p>協会主催・共催事業、協会の管理・運営施設での事業等を広く周知することで事業参加者の増加を図るとともに、協会自体やその取り組みについて広く市民に周知していきます。</p> <p>(1) 発行：年6回</p> <p>(2) 配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内各郵便局、駅PRボックス、市、区、市民利用施設等</p> | B- |
| <p>4 協会ホームページの充実</p> <p>インターネット媒体を通して、協会の概要、青少年4施設の紹介、事業および講座等の案内、ボランティア活動、最新の宇宙・天文情報等の情報を提供することにより、青少年育成活動、ボランティア活動希望者の支援、科学知識の普及および協会のPR</p> | B- |

| | |
|---|-----|
| を行うとともに、協会運営の透明性や公開度を高めていきます。また、情報を受け取る側のニーズを反映した、わかりやすく有益な情報提供の方策を検討するとともに、情報提供量の増加などを図ります。 | |
| 5 協会リーフレット制作 | D - |
| 協会の愛称・シンボルマークを積極的に活用し、市民により親しまれる協会となるためリーフレット等を作成し、協会事業や取り組みを周知します。 | |
| 6 子どもの遊びサポート事業 | B - |
| プレイパークをはじめとする、集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育てていく”遊びの場”に関わるボランティアを養成します。 | |
| 7 学校地域と連携した地域人材の活用システム事業の推進 | C - |
| 中学校における地域人材の活用について、モデル校での実践を通じて、地域が学校を見守る体制を作るとともに、他の学校への普及を図るため、広くこの実践の成果をPRしていきます。 | |
| 8 基金委員会 | D - |
| 基金募集事業についての企画運営を協議し、基金の拡充を図っていくと共に基金運営についての協議を行います。 | |
| 9 基金募集事業の実施（爆笑！濱っ子寄席） | D - |
| 基金募集のため、「爆笑！濱っ子寄席」、基金箱の設置（市内約60か所）等の基金募集事業を実施します。 | |
| 10 野島クリスマスキャンプ（共催） | A - |
| 横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒を対象に体験活動の場を提供するとともに、青年ボランティアが児童・生徒への理解を深めてもらうことを目的に、団体（実行委員会）と協働で実施します。 | |
| 11 ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル2007（共催） | A - |
| 高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進するため、運営支援団体の一員として実施します。 | |
| 12 青少年の自立支援に関する事業（新規） | A - |
| 青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動を、市内の若者自立支援の専門機関、団体と連携し実施します。 | |
| 13 不登校・ひきこもり支援団体、組織との協働事業（共催） | A - |
| 横浜市教育委員会が行う適応指導教室「ハートフルスペース」（不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生活指導）の場として、横浜市青少年交流センターを提供します。また、宿泊事業を横浜市教育委員会と共催で実施し、青年ボランティアを導入した集団生活の支援を行います。 | |
| 14 ニート・ひきこもり対策事業の検討（新規） | A - |

| | | |
|----|---|-----|
| | ニート・ひきこもりといわれる青年たちが社会との接点を持ち、自分らしい生き方を見つけることができるよう支援するための事業の検討を行います。 | |
| 15 | P T A 新聞作り講習会 | B - |
| | P T A 広報紙に必要な新聞づくりの基本について、講習と演習、作品コンクール等を行います。なお、会員は参加費を割り引くことで、会員の拡大を図ります。 | |
| 16 | 横浜災害ボランティアネットワーク会議への参加・支援 | C - |
| | 災害時にボランティア活動が効果的に行えるよう、市内のボランティア推進機関や団体および区等との連携を強化するために、ネットワーク会議の活動に参加します。また、他の中間支援組織やN P Oとのネットワークを構築することで協会の中間支援機能を発揮していきます。 | |
| 17 | 「協会だより」の発行 | D - |
| | 協会の動きや会員が参加可能な事業等をお知らせし、協会事業への参加および協会への理解を深めます。 | |
| 18 | 会員交流会 | D - |
| | 協会への理解と会員相互の交流を図るため交流会等を実施します。 | |
| 19 | 事業評価委員会 | D - |
| | 協会の事業内容やその運営方法について、第三者による評価・検証を行う事業評価委員会を開催し、改善を図ります。 | |
| 20 | 組織、人事制度、給与等の検討 | D - |
| | 平成 18 年度の「組織・人事給与検討委員会」の提言をもとに組織、人事制度、給与などに関して、着手できる改革を実施するとともに、さらに具体策について検討を行います。 | |
| 21 | 職員研修の充実 | D - |
| | 職員の資質向上や、業務水準の向上を図るための内外研修の充実やスキルの共有、また、職員全体が一同に集まり、相互の事業の成果や課題を発表・検討する「職員研究交流集会」を開催します。 | |
| 22 | 青少年の体験活動充実に関する事業 | A - |
| | ボランティア活動をはじめ、自然、就業、科学などの青少年の体験活動・学習についての相談・コーディネート、活動情報の収集・提供を通じて青少年に関わるボランティアの裾野を広げることを目的として、青少年体験活動推進センターの運営を行います。 | |
| 23 | 講師派遣 | B - |
| | 青少年育成活動、ボランティア活動、科学知識の普及啓発活動等を支援するため関係団体等に、職員を講師として派遣します。 | |

指定管理事業

各施設における、指定管理以外の自主事業については事業名の次に（自主事業）の表示をしています。

1 横浜市青少年育成センター

主な事業

| 事業名 | 分類 |
|--|-----|
| (1) ボランティア情報スポット | B - |
| <p>青少年育成に取り組む指導者、育成者、NPO等を支援することで地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮していきます。</p> <p>ア 情報収集・提供、相談、コーディネート</p> <p>青少年育成活動に関する情報を提供するため、情報の収集を行うとともに、収集した情報のデータベース化の準備を行います。また青少年育成活動の相談などに対応していきます。</p> <p>イ 講座・研修</p> <p>青少年活動に必要なスキルや青少年育成に関する講演・講座、NPOマネジメントについての研修や講座を実施します。他機関が主催する研修事業についてもPRを行います。</p> <p>（救急法 AED 講習会、カウンセリング講習会、NPOマネジメント講座、ボランティア入門講座、子どもの居場所講座等）</p> <p>ウ ネットワーク支援</p> <p>青少年育成団体やNPOなど青少年に関わりのある団体相互の交流、ネットワークを推進します。</p> <p>（子どもに関わるボランティア活動大集合！等）</p> | |
| (2) 研修室・スタジオ等の貸出し | B - |
| <p>青少年指導者・育成者の活動の場として、研修室、音楽スタジオ、和室を貸し出します。</p> | |
| (3) 青少年活動団体の事務局支援機能 | B - |
| <p>団体が活動していくため、印刷機、コピー機の貸出、軽作業の場として活動支援室を提供します。</p> | |
| (4) 活動物品の貸出 | B - |
| <p>綿菓子機、ポップコーン機、着ぐるみなどの活動物品の貸し出しを行い、地域の青少年活動を支援します。</p> | |
| (5) 運営の検証と改善（利用者協議会） | B - |
| <p>センター利用者、青少年育成活動者、協会職員等で構成する委員会において、施設としての役割を十分果たせるよう、機能の促進、取り組みの検証を行い、効率的・効果的な運営のための見直しを行います。</p> | |

2 横浜市青少年交流センター

主な事業

| 事業名 | 分類 |
|---|-----|
| (1) 青少年委員会の運営 交流センターを利用する青少年の声を施設運営に活かすとともに、自主活動の中核として活動する青少年委員会をさらに充実し、交流センターの運営や事業への青少年の参画を図ります。 | A - |
| (2) 青年ボランティアの養成 青年に子どもを対象としたボランティア活動の場を提供します。また交流センターを利用する青少年が多く、青年ボランティアとふれあうことにより、多様な価値観や考え方に接し、社会性を育む場の充実を図ります。 | A - |
| (3) ロビーワークの充実 ロビーワークの充実のため、施設スタッフのスキルアップおよび青年ボランティアの導入によるスタッフ体制の充実を図り、居場所感の質的向上を図ります。 | A - |
| (4) 場の提供 ア 自主的な活動の場 青少年の活動拠点として、できる限り制限を設けず会議室、スタジオなど、部屋の貸し出しを行います。また、青少年の自主的な活動が充実するよう支援を行います。 イ 多様な個別支援の場 ロビーワーク、交流を目的とした事業(フラットC a f e)などの自立支援事業や、青少年の課題に取り組む専門機関との連携、青少年体験活動推進センターとの連携などを通して、青少年に対する多様な個別支援を行います。 ウ 社会性を身に付ける場 ロビーワークを活用し、異年齢の交流の場の提供を行います。また、ボランティア活動の場の提供などを行います。 エ 地域や保護者との連携と交流の場 施設の利用者同士や地域での体験を通じて大人と出会い相互理解を深めるための交流事業、成果発表会および親子で参加できる体験事業などを行います。 オ 将来について考えていける場 事業参加や、ロビーワークを通して、青少年が自分自身を見つめ直し、社会へのつながりを感じられる支援を行います。また就労体験や技能にふれる体験を通して、将来の目標を見つけるきっかけを作る体験事業を行います。 | A - |
| (5) 運営の検証と改善(運営委員会) センター利用者、青少年委員代表者、青少年育成活動者等で構成する委員会において、施設としての役割を十分果たせるよう、機能の促進、取り組みの検証を行い、効率的・効果的な運営のための見直しを行います。 | A - |

3 横浜市野島青少年研修センター

主な事業

| 事業名 | 分類 |
|---|---------|
| (1) 集団宿泊体験の場の提供 | A - |
| 施設の特長を生かし、現代の青少年に不足していると言われる「自ら直接体験する機会」を、集団宿泊体験を通じて青少年に提供します。 | |
| (2) 講座・研修会 | A - |
| 青少年活動団体のリーダーが、プログラムを企画・進行できるような講習会（スキルアップ講習会）や、利用団体を対象とした定期的なワークショップ（横浜野島カリー、クラフト、食育関連、宿泊者向けワークショップ）を開催します。 | |
| (3) 相談業務 | A - |
| 施設を利用する団体がより充実した研修を行えるよう、利用団体への情報提供、活動プログラムの相談などを通して充実した宿泊体験を支援します。 | |
| (4) 備品貸出業務 | A - |
| 施設の備品の貸し出しを通して、利用者の施設内における活動の充実を図ります。 | |
| (5) 野島ふれあいランド | A - |
| 施設と研修センターのノウハウを提供し、遊びを中心に地域の青少年の育成と異年齢間の交流を促進します。 | |
| (6) 野島ボランティアスタッフ育成 | A-I, II |
| 野島の周辺環境や施設を活かした定期的な研修活動を行い、青少年育成・ボランティア活動について学び、ボランティア同士・また利用者と関わり会いを持つことで青少年への関心を高め、青少年活動が実践できるボランティアスタッフを育成します。 | |
| (7) パードウォッチング in 野島 2008（共催） | A - |
| 金沢区野島海岸に訪れる「冬鳥の観察」を通じて、自然環境保護への興味と関心を高めます。また、この活動を通じて市民団体と地域の人々が交流し、地域活動に目を向けるきっかけを作ります。 | |
| (8) 2007 オールクリーン野島ビーチ（共催） | A - |
| 身近な自然を保全するため、野島を拠点に活動するボランティア・市民活動団体と協働で横浜市内に唯一残る自然の砂浜「野島海岸」を清掃します。 | |
| (9) 金沢水の日実行委員会への参加・支援 | C - |
| 自然の水環境豊かな金沢区内の「平潟湾」周辺の水辺で活動する市民団体が集まり、金沢の豊かな水環境をより健全な姿で次世代に引き継ぐためのイベントを実施します。 | |
| (10) 金沢区災害ボランティアネットワークへの参加・支援 | C - |
| 金沢区の地域拠点・災害時の拠点のひとつである研修センターという立場でネットワークに参加することで、災害時の研修センターのあり方を確認するとともに、地域施設としての働きをアピールしていきます。 | |

| | |
|---|-------|
| (11)金沢区災害ボランティア講習会（新規） | C - |
| 金沢区内の災害ボランティア組織の活性化と、研修センターにおける災害時の対応などの強化のための講習会を開催します。 | |
| (12)横浜市立大学医学部現代G Pプロジェクト支援（自主事業）(新規) | C - |
| 横浜市立大学の医学生と看護学生が連携を図り、医療を通じた青少年育成に取り組むことにより、将来の安全な医療現場の環境を作るきっかけとする現代G Pプロジェクトを推進するため、横浜市立大学医学部に対して事業実施の相談、アドバイスなどの支援を行います。 | |
| (13)野島カヌー教室（自主事業）(新規) | A - |
| 金沢スポーツクラブと協働して、野島の海浜を利用したカヌー体験事業を試行実施します。スポーツを通して地域との連携を図り、青少年育成の環境を築きます。 | |
| (14)体験学習プログラム | A - |
| 横浜市内外の小学校 4 年生を中心とした宿泊体験学習を促進するため、野島ならではの自然を活用したプログラムの開発・提供を行い、自然に対する興味、理解を深めると同時に、施設の利用を促進します。 | |
| (15)厨房を使った日帰り事業（新規） | A - |
| 横浜野島カリー、もちつき等、厨房を使用した日帰り事業を実施し、施設の利用促進を図ります。 | |
| (16)キッズクラブキャンプ（自主事業） | A - 1 |
| 放課後キッズクラブと協働で宿泊キャンプを行い、集団生活を通じて参加者同士のふれあいを深め、自立心・協調性を深めます。 | |
| (17)研究開発事業 | A - |
| 施設環境やプログラムの内容充実、職員のスキルアップ向上などを図り、利用者の満足度の向上に努めます。 | |
| (18)運営の検証と改善（アンケート調査） | A - |
| 研修センター利用者に対してアンケート調査を実施し、その結果をサービスの向上や設備の改善に反映します。 | |
| (19)その他の共催事業（自主事業） | C - |
| 「野島自然観察探見隊」をはじめ、関係団体と共催して事業を実施します。 | |

4 横浜こども科学館

主な事業

| 事業名 | 分類 |
|---|-----|
| (1)展示物の提供、維持、開発、改良 | A - |
| 常設展示物(200点余)の多くは10年から20年を過ぎており、これまで職員による日々のきめ細かいメンテナンスを行うことで性能を維持しています。これらの実績を活かすとともにその性能をより高めていくことを研究し、良好な維持管理を行います。 | |
| (2)宇宙劇場の管理運営 | A - |
| 昨年度、宇宙劇場に導入した全天周デジタル映像投影装置と国内最高性能を誇るプラネタリウム投影機を駆使した番組内容の充実を図り、入館者・入場者の増加に取り組みます。 また、宇宙劇場の保守管理を行い、引き続きプラネタリウムの安定した投影に努めます。 ア 一般投影番組の投影および制作 不特定多数の入場者を対象に宇宙や天文現象等に関してテーマを設け、デジタル映像を中心としたオート番組と、今夜の星空を職員による生解説で行います。 また、番組の制作を行います。 イ ちびっ子プラネタリウムの投影および制作 ちびっ子プラネタリウム番組を投影します。また、番組の制作を行います。 ウ 学習用プラネタリウム番組を投影します。 | |
| (3)夏休み特別展 | A - |
| 夏休み期間中に、誰もが夢見る「変身」をテーマに身近なものから最先端技術まで、様々な手法を駆使して、楽しく体験してもらう特別展を開催します。 | |
| (4)夏休み・年末年始特別プログラム | A - |
| 来館者に科学の楽しさ、おもしろさを体験し、興味を持ってもらえるような科学実験ショーの開発・改良を行い、来館者に提供します。また、子どもの長期休みに対応したイベントを開催しPRすることで来館者増を図ります。 ア 夏休み特別プログラム 自由に閲覧できる実験ショー、ワークショップ、大道芸ショーなど見学者と一体となって楽しい参加型ステージを作ります。5階キャプテンシアターで開催します。 イ 年末特別プログラム クリスマスやお正月をテーマにした、家族で楽しめる参加型イベントを5階キャプテンシアターで開催します。 | |
| (5)科学実験ショー | A - |
| 科学の楽しさ、おもしろさをライブで体験できるよう、5階キャプテンシアターで毎月演目を変えてサイエンスショーを、2階スペースラボでいろいろなテーマのミニ実験ショーを実施します。 | |
| (6)企画展 | A - |

| | |
|--|-----|
| 特別展示室を活用し、年間を通して企画展を実施します。常設展示とは異なるテーマや展示形態をとり、様々な角度から科学のふしぎ、おもしろさにふれてもらう機会を提供します。 | |
| (7) ゴールデンウィーク・夏休みイベント | A - |
| 来館者が多いゴールデンウィークと夏休みに、幅広い年齢層に対応したワークショップ形式の参加型のイベントを実施し、楽しい科学館を演出します。 | |
| (8) コンピュータ教室 | A - |
| コンピュータの正しい知識や基本操作を学ぶ親子対象の教室、小学生を対象とし、プログラミング技法を楽しく学ぶための教室をそれぞれ開催します。 | |
| (9) 実験工作教室 | A - |
| もの作り体験を通じて、道具の使い方などの工作の基本と科学知識を習得します。 | |
| (10) 体験スタジオ | A - |
| 1時間程度でできる簡単工作や科学遊びを通して科学体験できる場を提供します。参加希望の多い小学校低学年からを対象とし、気軽に参加できるように当日受付とします。 | |
| (11) 天文教室 | A - |
| 天体望遠鏡を自分で製作しながら、その仕組みや構造を理解する教室の実施や、天文現象を見るための観望会を実施し、星空に親しむ機会を提供します。 | |
| (12) 講演会 | A - |
| 科学への興味、関心を深めるため、親子を対象とした講演会等を開催します。 | |
| (13) サイエンスキャンプ | A - |
| 小中学生を対象に、野外での自然観察、天体観測などを通して科学知識の普及を進めるとともに、事業をサポートするボランティアの育成を図ります。 | |
| (14) 地域連携事業 | A - |
| <p>ア 「洋光台サイエンスクラブ」</p> <p>地域やNPO、ボランティアとの連携を図りながら、近隣地域の子どもたちを対象に、様々な教室や催しを実施することで、理科離れに歯止めをかけ科学への興味をかきたてます。</p> <p>平成16年から18年度の3か年、文部科学省により推進されてきた地域子ども教室を継承するものです。</p> <p>イ めざせ!マジシャン</p> <p>プロのマジシャンによる「マジックショータイム」とプロが教える「マジック体験スタジオ」の2部構成でNPOとの連携事業として実施します。</p> | |
| (15) 広報出版事業 | B - |
| <p>科学情報紙や科学館事業案内情報などを発行して、青少年の科学への興味を呼び起こすとともに科学館のPRを行います。</p> <p>ア 科学館ニュースの発行 年2回</p> <p>イ 事業案内ポスター、チラシの発行 隔月</p> | |

| | |
|---|-----|
| (16)科学体験活動インストラクター養成研修 | B - |
| 科学知識、技術を持った人材を発掘し、指導者養成研修を通して科学体験活動インストラクターを養成します。しっかりした指導者、指導体制のもとで子どもたちの科学体験の機会を増やします。 | |
| (17)指定管理付帯事業 | D - |
| 科学館の売店・利用者用駐車場および平成19年度から喫茶室の管理運営を、利用者の利便およびサービス向上ならびに自主財源確保を目的として行います。 | |
| (18)運営の検証と改善（来館者アンケート、公募モニターによる評価制度） | B - |
| 来館者アンケート調査では来館者のニーズや動向の意識調査を行い、科学館運営に役立てます。またモニター評価制度では、公募モニターにより事業や運営についての評価、検証を行い、事業の改善強化を図ります。 | |

放課後キッズクラブ事業

1 放課後キッズクラブの運営

平成19年9月に開設されるキッズクラブを含め合計18か所の運営を行います。

| 16年度開設 | | 17年度開設 | | 18年度開設 | | 19年度開設 | |
|--------|----------|--------|---------|--------|----------|--------|-------|
| 区名 | 学校名 | 区名 | 学校名 | 区名 | 学校名 | 区名 | 学校名 |
| 南 | 太田小学校 | 鶴見 | 寺尾小学校 | 都築 | 荏田東第一小学校 | 神奈川 | 浦島小学校 |
| 港南 | 港南台第三小学校 | 西 | 宮谷小学校 | 戸塚 | 名瀬小学校 | | |
| 旭 | 笹野台小学校 | 中 | 本町小学校 | | | | |
| 金沢 | 能見台小学校 | 磯子 | 岡村小学校 | | | | |
| 緑 | 長津田小学校 | 港北 | 日吉南小学校 | | | | |
| 都筑 | 折本小学校 | 青葉 | すすき野小学校 | | | | |
| 戸塚 | 秋葉小学校 | 栄 | 桜井小学校 | | | | |
| 瀬谷 | 南瀬谷小学校 | | | | | | |

2 会議等の実施について

(1)各キッズクラブの運営に関わる評議会や保護者会を開催するとともに、各キッズ主任指導員および指導員の合同会議を開催し、情報交換等を行います。

| | |
|---|----|
| ア 評議会の開催 | 分類 |
| 各キッズが評議会を開催し、地域、学校との連携を図ります。 | A- |
| イ 保護者会の開催 | A- |
| 各キッズが保護者会を開催し、保護者からの意見や要望について聞く機会を設けます。 | |

| | |
|--|----|
| ウ 主任指導員会議 | A- |
| 主任指導員を対象に、毎月、精算業務や事務連絡等を含めながら各キッズ間での情報交換を行います。 | |
| エ 指導員会議 | A- |
| 指導員を対象に、毎月、事務連絡や報告等を含めながら各キッズ間での情報交換を行います。 | |
| オ 主任指導員連絡会議 | A- |
| 各法人の主任指導員が年2回一同に会し、業務運営上の情報交換等を行います。 | |